

『徳山地方郷土史研究』第二八号に掲載の

## 島田蕃根

小伝 に対する追加と訂正事項

会員 小林省三

### 一、徳山誕生と祖先・教学院

島田蕃根は文政一〇年（一八二八）二月八日、徳山の金剛山教学院で出生した。幼名を円真といい。後に徳山藩主元蕃から偏諱を賜り蕃根と改名した。また南村、如繩道人、暁華懺士、天心居士等と号した。

蕃根の家系は南朝の功臣にして聖護院に入り山伏となった島田兼長より出、後に芸州草津に住した教学院良栄のとき毛利元就の命により、始めて聖護院の末寺となった。元和五年（一六一九）に良栄の子教学院中興権大僧都良円が、初代徳山藩主毛利就隆（発性院殿）が徳山へ分地されたとき祝禱者として招かれ芸州草津より新封地に移った。下松陣屋時代【元和三年（一六一七）】慶安元年（一六四八）の約三〇年間は、金剛山教学院として栗屋邑（現在の周南市栗屋）に開山され存在していた。

徳山金剛山教学院一世良円は、寛永一九年（一六四二）五月二二日に遷化しているので栗屋邑で没したと考えられる。藩邸が下松から徳山に移転後【慶安元年（一六四八）】に栗屋邑の金剛山教学院は知行一五石扶持方三人分と徳山に屋敷一ヶ所を賜り、官禄寺院となった。栗屋邑の存院は寛文中に廃虚となった。その後、延宝三年（一六七五）八月三日金剛山吉祥院が栗屋邑に開山した。金剛山吉祥院の由来書によれば、同院は旧金剛山教学院の跡地に開山したと考えられる。徳山金剛山教学院の家系は一世良円の後、教学院権大僧都二世良盛、同三世大円、同四世秀円、同五世円盛と続き、六世浄観（島田藍泉）の孫八世が島田蕃根である。蕃根は明治四十年（一九〇七）九月二日病により八一歳で逝去した。墓石は現在東京都内の青山墓地にあり、表面に「島田蕃根之墓」、側面に「弘教院圓乘通觀大徳、明治四十年九月二日寂」と刻まれている。

(1) 『藍泉文集』 教学院記  
参考文献 (2) 『防長寺社由来』 第七卷

(3) 『島田藍泉伝』 荒木見悟